

店頭から
「こんにちば」

第50回

重要な初期診断さえ しつかりしていたら… 悔やんでも悔やみきれない事態

病気は、日常生活の自由も奪うだけに怖いものです。過信は禁物と心得てください。

検査は異常なし…

最近の家庭用のヘルスメーターは、体重だけでなく、体組成も測定できるようになっています。体組成とは、体脂肪率、筋肉率、体年齢、内臓脂肪率などです。

簡易測定ですから、痩せている人の体脂肪率は低く、一方、筋肉率は高く表示されます。したがって、体年齢もグンと若く出てしまう特徴が。

最近では、筋肉率ではなくて、筋肉量自体を増やしなさいと指摘されています。そのため、高齢者こそ、筋肉の源となる、たんぱく質を摂取すべきとも。

さて、ある日のことです。細身でメタボ体格ではなく、血圧も高くなって、糖尿もな

いという方の奥様がやって来
ました。

「運動も欠かさず、家系にも
脳血管系の病気の人がいな
い…。ウチの主人は絶対、脳
卒中なんかにはならない」
そうした変な自信を持って
いました。

ただ、ある日突然、右手が痺
れるというので、かかりつけ
の医師に連れて行くと、整形
外科を紹介されたといひます。

検査の結果は、異常なし。
「湿布薬でも貼っておきなさい」ということで、貼っては
みたものの、治らない…。

そこで、脳梗塞かもしれない
いと、別の病院に向いて、
頭のMRIを撮ると、その疑
いがあるとのこと。

そこで、先の整形外科へ、
MRIの画像を持って行く

と、「脳梗塞ですね」と、サ
ラリといわれたそうです。

「見つけれなくて悪かつ
た」という表情の片鱗さえな
く…。

そうして、その整形外科医
に、「明日にでも脳外科へ行っ
てください」といわれ、帰さ
れたといひます。

社会復帰を祈る日々

その夜のことです。ヨダレ
を、タラ〜と、たらず脳梗
塞特有の症状が出て、慌てて
救急車を呼んだといひます。

最初の症状が出たときに
は、言葉のもつれはなかった
のに、処置が遅かったので、
失語症にまでなってしまった
そうです。3年も経つのに、
いまだに社会復帰できないで
いるとのこと。

悔やんでも悔やみきれない
うえに、医学的知識もない

で、先の整形外科医を訴える
こともできない事態。

「自分のからだは、自分で守
るしかないのよ。とにかく、
海外旅行ができるラストチャ
ンスと思い、昨夏、カナディ
アンロッキーを歩くツアー
へ。何kmも歩いてきました」

そう、奥様。ご主人がゴル
フに行くなどの元気なころ、
奥様は別行動で、東北の名だ
たる山々を登っていたとか。

アクティブな奥様のおかげ
で、リハビリ中も、「うちに
引っ込んでちゃダメ」とのこ
とから、社会と交流ができて
いるといひます。

ご主人が1日も早く、社会
復帰できることを祈る日々で
す。



宮川薬局（宮城県仙台市）代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール／1976（昭
和51）年、東北薬科大学
卒業。'78（同53）年、同
大学大学院修士課程修了。'87（同62）年、薬
学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。

「寒い冬です。薬用人参のご活用を」